

西条市合宿都市構想 基本計画

平成 20 年 5 月

西 条 市

西条市合宿都市構想基本計画

【目次】

1	基本計画の策定にあたって	1
	(1) 背景、目的	1
	(2) 策定方針	2
2	スポーツ合宿動向	3
	(1) スポーツ合宿の動向	3
	(2) 地域の魅力化と活性化	5
3	合宿都市構想の理念と目標	7
	(1) 理念	7
	(2) 目標	7
4	西条市の現況と課題	8
	(1) 合宿実施者の動向	8
	(2) スポーツ施設の概況	9
	(3) 西条市内のスポーツ施設稼働概況	10
	(4) 自然環境等の地域資源の概況	13
	(5) 課題	14
5	施策方針	15
	(1) 合宿受入施策（課題解決）	15
	(2) 重点プロジェクト	18
6	基本計画実施スケジュール	19
7	推進体制	20
8	文化系合宿への適用	22

1 基本計画の策定にあたって

(1) 背景、目的

21世紀の地方は少子高齢化、地域間競争、地域格差の拡大等、取り巻く環境が大きく変動しています。これらの状況を乗り越え継続的に発展していくためには、地域の状況に応じ、地域資源を活用した特色ある地域づくりを実施していく必要があります。

西条市は、平成16年11月1日に西条市、東予市、丹原町、小松町と合併し、四国屈指の工業集積と県内有数の耕作面積を併せ持つ四国最大級の産業都市になったと同時に、燧灘や石鎚山系に代表される自然の豊かな地域となっています。

また、西条運動公園や東予運動公園に代表されるスポーツ施設、良質な水資源、西日本最高峰の石鎚山を代表とする山岳地帯、市内に点在する温泉などの地域資源も豊富です。

これらから、魅力あふれる活気に満ち溢れた西条市を創造していく一つの方策として、スポーツ施設や石鎚山系の高地資源を活用したスポーツ活動分野での誘客環境を創出することにより交流人口を拡大し、関連産業振興による地域経済の活性化を図るとともに、来訪者との交流やノウハウ吸収による「市民のスポーツ競技力の向上」を目指します。また、そこから派生する「市民の健康増進」による元気な人づくりを行っていくことにより、継続的な地域の発展に繋がっていくと考えられます。

本計画は「合宿都市構想」を推進する上での施政方針や理念、重点プロジェクト等を示すものです。

(2) 策定方針

合宿都市構想は、スポーツ活動分野を切り口として、地域の継続的発展を目指すものであることから、次の3点を基本計画の策定方針とします。

① 来訪者のニーズに対応した環境づくり

現在ある地域資源を最大限活用し「西条の特色」を打ち出すとともに、関係機関が一体となった「おもてなし」の環境づくりを行ないます。

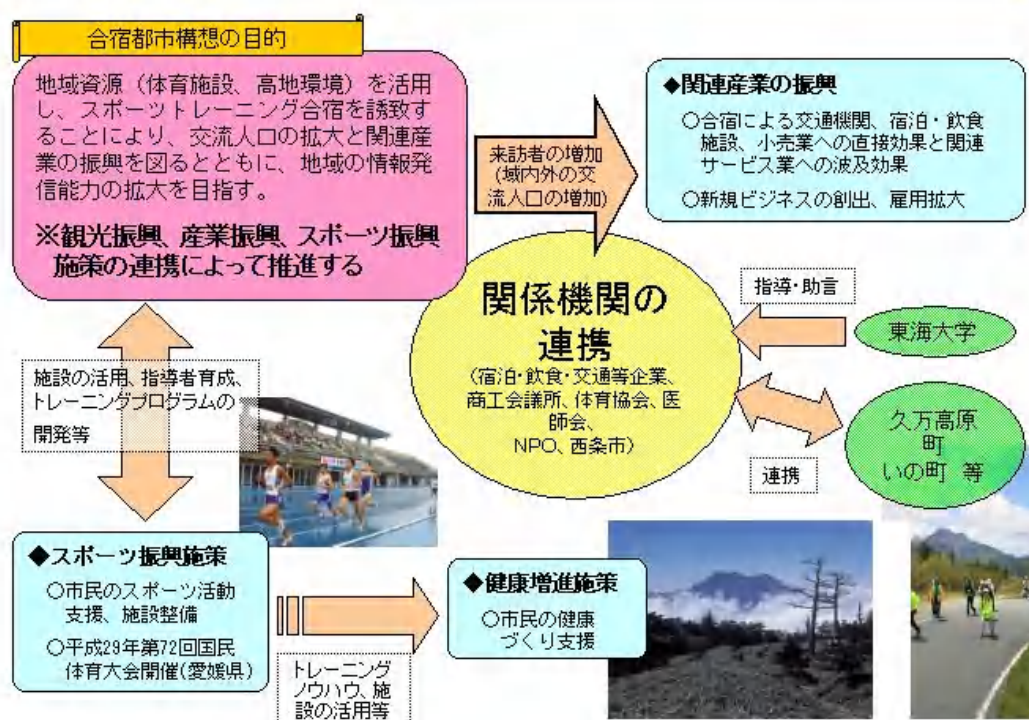
② 市民への利益還元

合宿を受け入れる環境づくりと担い手となる人材の確保、育成に努めるとともに、トレーニング環境とトレーニングノウハウを市民のスポーツ競技力の向上と健康増進を推進する上で活用します。

③ 合宿環境を構築する上でのルールづくり

市民のスポーツ活動とスポーツ合宿の利用バランスを考慮したスポーツ施設の利用ルールを設定するとともに、市内合宿関連産業の振興に繋がる施策展開を図っていきます。

合宿都市構想



2 スポーツ合宿動向

(1) スポーツ合宿の全国的な動向

現在、様々なスポーツ競技種目は、その競技シーズンに合わせて、日本各地で合宿を実施しており、トップアスリートから実業団、学校等の部活動、スポーツ少年団等に至る幅広い競技者が存在しています。

スポーツ合宿の実施には、競技種目や競技レベルにより合宿参加人数、合宿期間、合宿費用に違いがあります。傾向としては、実業団等は、大学や高校の競技者と比較すると合宿に係る費用を多く支出する傾向にあります。

また、スポーツ合宿は各競技シーズン前に実施されることが多く、学生が所属する団体等は、春季、夏季等の長期休暇期間に実施するパターンが多くなっています。

スポーツ合宿実施者が合宿地に求めるものとしては、合宿に適したスポーツ施設、合宿に適した食事の提供や宿泊環境、安価な合宿コスト等があり、それらのニーズに適した合宿地には繰り返し定期的に合宿を実施している、アスリートが多く見られます。

合宿地の選択については、競技指導者やマネージャー等により決定されることが多く、選択に関しては、人的ネットワークによる招致、インターネット、ダイレクトメール等の情報収集により決定される傾向にあります。

日本各地には、豊かな自然環境や観光資源、充実したトレーニング環境を備えた魅力ある合宿地が数多く存在しています。また、スポーツ合宿を誘致する手段として、誘致自治体において合宿者に対する補助制度の導入や受入れコーディネートの実施などの取り組みを実施している地域もあり、スポーツ合宿の誘致は、既に地域間での競争が展開されています。

先進地の事例

① 宮崎県

「スポーツランドみやざき」を掲げ、観光コンベンション協会を中心に「スポーツランドみやざき推進協議会」を平成8年に設置し、合宿の誘致に積極的に取り組んでいます。現在、プロ野球、Jリーグ、韓国プロ野球、韓国Kリーグの春季キャンプの誘致により知名度が向上し、夏季における大学等のサッカー合宿が増加しています。

また、専用ホームページによるスポーツ、宿泊施設等の詳細な情報発信を行うとともに、観光客や住民向けにキャンプ日程や練習試合の告知などの情報を詳細に発信しています。

(HP <http://www.kanko-miyazaki.jp/catemenu/cate03/sport/index.html>)

② 北見市、網走市、津別町、美幌町（北海道）

昭和60年から北見市にて合宿誘致活動を開始し、現在は女満別空港を中心とした4自治体の連携によって、社会人ラグビーの夏季合宿の誘致に取り組んでいます。4市町は連携して合宿者のニーズに対応し、グラウンドの全日利用の要望や、練習試合会場のセッティング、会場移動の支援を実施しています。そうした努力により当地は社会人リーグのトップクラスのチームが複数同時期に合宿するなど、社会人ラグビーの合宿地として成功しています。

③ 宇和島市、愛南町（宇和島・愛南スポーツ合宿等誘致活動推進協議会）

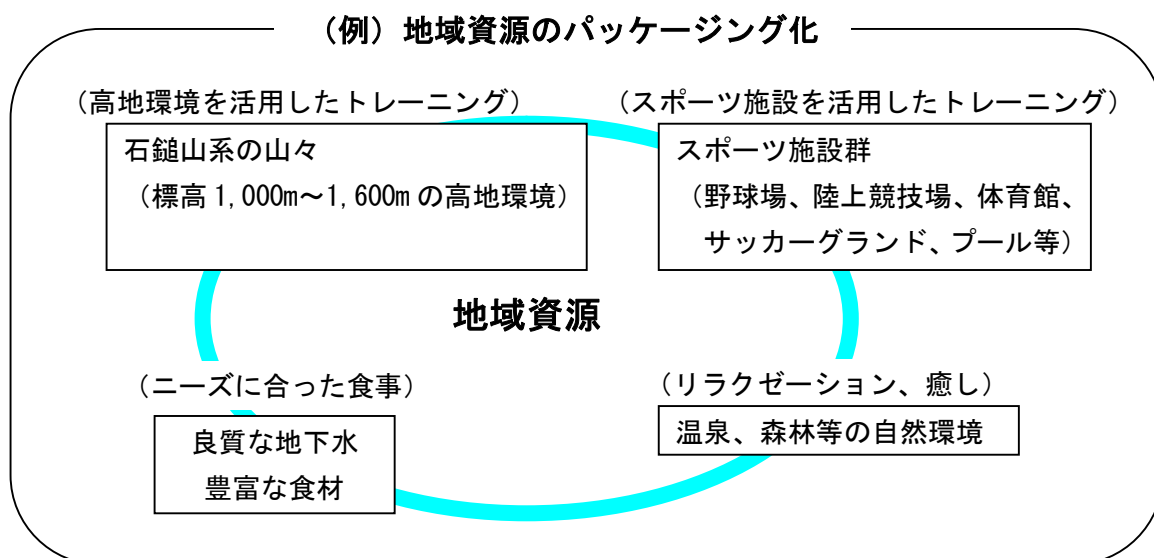
宇和島市と愛南町では、商工観光課が窓口となり共同でスポーツ合宿の誘致を行っています。現在は、スポーツ合宿に関連する専用ホームページを立ち上げて情報を発信しているほか、スポーツ合宿に際し、平成19年からは両市町内に宿泊した場合の補助金（1泊につき1人あたり1,000円を助成）を交付し、合宿費用の一部を補助しています。

(HP <http://www.ua-sports.jp/>)

(2) 地域の魅力化と活性化

日本各地には、豊かな自然環境や観光資源、充実したトレーニング環境を備えた魅力ある合宿地が数多く存在する中、合宿候補地として西条が選択されるためには、当地の魅力情報を発信することが重要になります。

今後、合宿都市構想を推進していくうえで、地域資源を発掘・再認識し、市民と行政が協力して地域を魅力化するための施策を実行し、アスリートが必要とする情報を発信していく仕組みづくりを行なう必要があります。



地域資源を活用し魅力化した事例

岐阜県、高山市、下呂市

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアは、飛騨御嶽高原の標高 1,200m~2,200m にわたる標高特性及び温泉などの地域特性を活かし、標高差や自然環境に応じたランニングコース、全天候型陸上競技場などのトレーニング施設を整備しています。

同トレーニングエリアでは、各種スポーツ競技団体役員、実業団陸上部監督、大学教授等からのアドバイスを受けながら高地トレーニング環境を創出しています。

また、JOCのオリンピック競技別強化拠点施設として認定、「高所トレーニング国際シンポジウム」開催時に、高所トレーニング研究者やトレーニング指導者へのPR活動を行なった結果、現在では日本陸上競技連盟や中部実業団連盟に加盟する陸上競技団体等が多数来訪しています。

参考資料

合宿に必要とする費用については、平成13年に実施された「北海道における合宿誘致と地域活性化の現状調査」によると、北海道において合宿を実施したチームへのアンケート調査では、一人当たりの合宿費用の全体平均は、63,111円となっており、費用の多い順にトップチーム、社会人、学生の順となっています。

また、一泊当たり費用については、全体平均は10,613円となっています。

【表1】種目別一人当たり平均合宿費用

	全 体			トップ チーム
	社会人	学 生		
バスケットボール	40,115	36,455	42,800	97,667
ラグビー・アメフト	54,579	51,143	64,200	111,000
サッカー	48,000	—	48,000	52,750
陸上	205,625	245,000	87,500	205,625
バレーボール	40,429	40,429	—	70,000
野球	40,000	—	40,000	—
総計	63,111	75,526	49,235	129,273

【表2】種目別一泊当たり合宿費用

	全 体			トップ チーム
	社会人	学 生		
バスケットボール	10,327	12,152	9,645	13,022
ラグビー・アメフト	10,712	12,177	8,755	12,950
サッカー	8,842	—	8,842	9,591
陸上	11,835	12,250	9,211	11,835
バレーボール	9,513	9,513	—	11,667
野球	7,407	—	7,407	—
総計	10,613	11,925	8,907	12,215

注) 各項目に平均費用を平均期間で除して算出

調査実施機関：日本政策投資銀行北海道支店

3 合宿都市構想の理念と目標

(1) 合宿都市構想の理念

西条市合宿都市構想は、住民が主体となり、スポーツ合宿に関連する地域資源を連携させて活用することによる交流人口の拡大と産業振興による地域活性化を図り、活力に満ち溢れるまちを実現させるしくみづくりを目指します。

そのために、市内にあるスポーツ合宿に関連する地域資源について再認識し、魅力化することにより、「行ってみたい」と思える「まち」を目指すとともに、地域で生活する人々が快適で住みやすいまちづくりの実現を目指します。

合宿都市構想の基本的な考え方

- ① 合宿者に選ばれる魅力ある地域づくり
- ② 関連産業の振興
- ③ 元気な人づくり

(2) 目標

- ① 3年後の平成22年度の目標として、合宿実施団体数については、平成19年度の1.5倍増(40団体)、5年後の平成24年度には、2.4倍増(60団体)を目指します。
- ② 合宿関連産業が一体となった「おもてなし」の展開により、5年後の平成24年度には、西条市内の関連産業へ1億2千万円分の経済波及効果を目指します。
- ③ スポーツトレーニング、レクリエーション活動、スポーツ合宿による施設利用促進を図り、スポーツ施設稼働率を3年後の平成22年度には、平成19年度比で平均10%、平成24年度には、平均20%高めることを目指します。

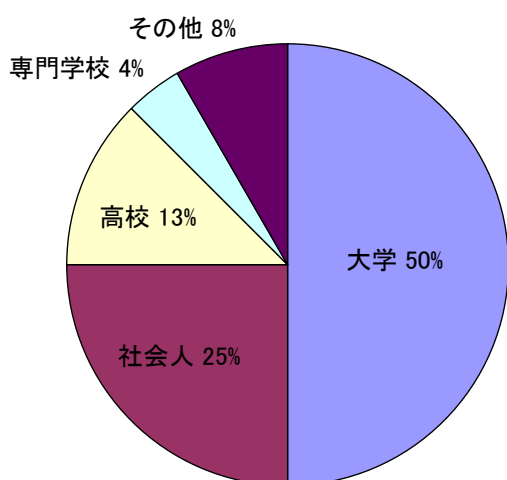
4 西条市の現況と課題

(1) 合宿実施者の動向

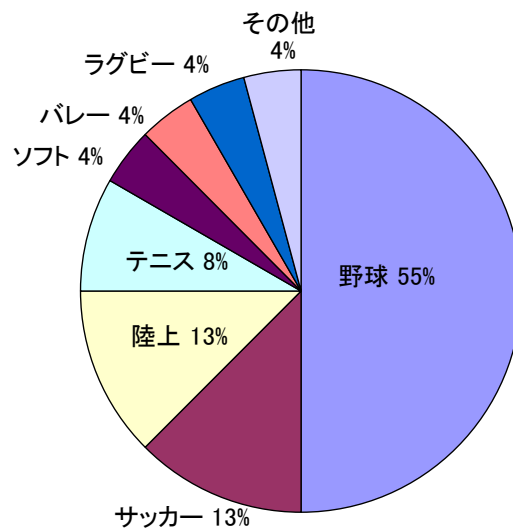
平成 19 年の市内の合宿トレーニングの実施状況については、野球、サッカー、ラグビー、陸上競技等の 24 団体が利用しています。主なトレーニング施設は、西条運動公園、東予運動公園の野球場、陸上競技場、多目的広場となっています。また、1 回あたりの合宿につき、平均 34.7 人が参加し、4.5 日間滞在しています。

スポーツ合宿の利用は、階層別にみると、大学等 50%、社会人 25%、高校 13% となっており、来西した団体を地域別にみると、近畿 48%、四国 17%、関東 13%、中国と九州がそれぞれ 9%、中部が 4% となっています。（平成 19 年合宿実績）

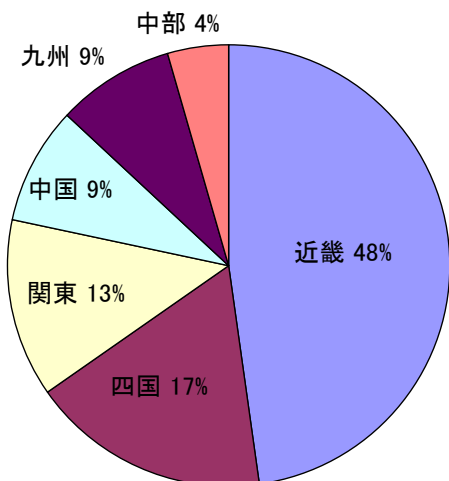
【階層別合宿者】



【競技種目別】



【地域別】



(2) スポーツ施設の概況

市民の誰もが生涯を通じて、それぞれのライフステージに応じたスポーツ・レクリエーションを楽しむことができるよう、当市では、野球場、陸上競技場、総合体育館等をはじめ、各種競技に対応できる施設を整備しています。【表1】

【表1】

施設一覧表

【 体育館 】

	施設名	施設内容(上段は特定種目の専有面)
1	総合体育館	アリーナ(バレーボール3面、バスケットボール2面等) トレーニング室、ジョギングコース、柔道、剣道、弓道場
2	ひうち体育館	アリーナ(バレーボール1面、バスケットボール1面等) トレーニング室、研修室、会議室、和室等
3	西条西部体育館	アリーナ(バレーボール2面、バドミントン3面等) 第1武道場、第2武道場
4	(仮称)東予運動公園 屋内体育施設	グラウンド面積90m×80m(ソフトボール1面、フットサル4面等) ロングパイル(人工芝)、屋内高15m、2階350席、ランニングコース300m トレーニング室
5	東予体育館	アリーナ(バレーボール2面、バスケットボール2面等) トレーニング室、ジョギングコース、武道場
6	丹原体育館	アリーナ(バレーボール2面、バスケットボール2面等) ミーティング室等
7	小松体育館	アリーナ(バレーボール2面、バスケットボール1面等) ミーティング室

【 野球場 】

8	ひうち球場	レフト側92m、ライト側92m、センター120m 夜間照明 6基 収容人員 10,840人
9	東予運動公園野球場	レフト側97.6m、ライト側97.6m、センター122m 夜間照明 6基 収容人員 5,000人

【 多目的広場 】

10	ひうち陸上競技場	第2種公認 走行レーン 400m×8レーン 収容人員 14,980人
11	東予運動公園 多目的広場	サッカー1面、ソフトボール2面等
12	東予運動公園球技場	天然芝(サッカー1面、ラグビー1面) (芝生スタンド3,500人収容)
13	西条西部公園 運動広場	野球(レフト側100m、ライト側100m、センター112m) ソフトボール2面、サッカー1面等 夜間照明 6基
14	西条市民公園 運動広場	野球(レフト側86.5m、ライト側82.5m) ソフトボール2面、サッカー1面 夜間照明 7基
15	丹原総合公園多目的広場	野球、ソフトボール2面、サッカー1面 夜間照明 6基
16	小松中央公園多目的広場	ソフトボール1面、サッカー1面等 夜間照明 8基
17	神戸公園運動広場	ソフトボール1面、サッカー1面等 夜間照明 6基
18	石井記念公園運動広場	ソフトボール1面、サッカー1面等 夜間照明 6基
19	石根ふれあい公園多目的広場	ソフトボール1面等 夜間照明 4基

【 テニスコート 】

20	西条市民公園テニスコート	クレーコート5面 夜間照明
21	西条西部公園テニスコート	全天候型ウレタンコート4面 夜間照明
22	ふれあい広場テニスコート	ゴムチップコート6面
23	東予運動公園テニスコート	砂入り人工芝コート8面 夜間照明(5面のみ)
24	丹原総合公園テニスコート	オムニコート3面 夜間照明 4基
25	小松中央公園テニスコート	オムニコート3面 夜間照明 6基

【 プール 】

26	西条運動公園総合プール	50mプール(8コース)等(流水プール、ポチャンコプールほか)
27	東予運動公園プール	50mプール(8コース)等(流水プール、スライダープールほか)
28	丹原B&G海洋センター	25mプール(6コース)等 採暖室、多目的ホール

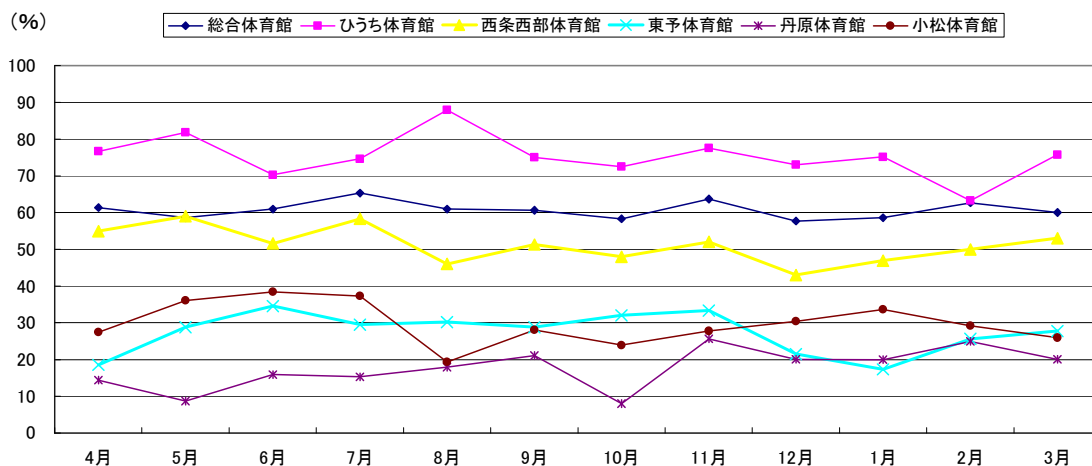
【 その他 】

29	小松武道館	剣道場1面及び柔道場1面
----	-------	--------------

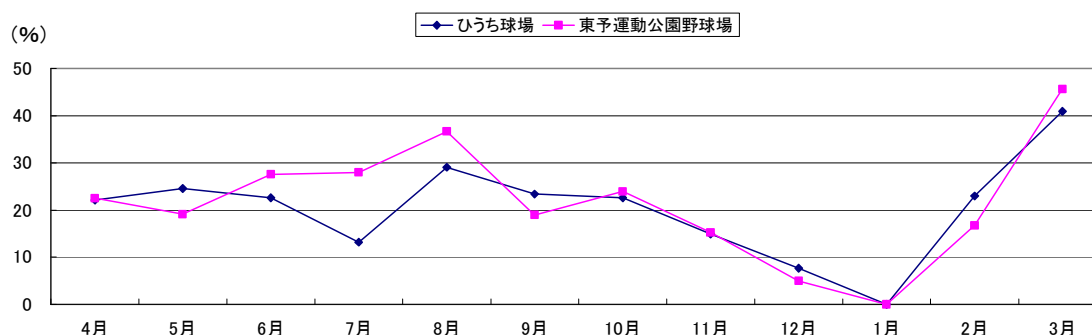
(3) 西条市内のスポーツ施設稼働概況

西条市内の主要スポーツ施設の稼働状況については、下記のグラフのとおりとなっており、一部の施設については、年間を通して体育館等の屋内スポーツの施設稼働率が高い傾向となっています。屋外スポーツ施設については、競技シーズンにより稼働率に変動があります。(平成18年度調)

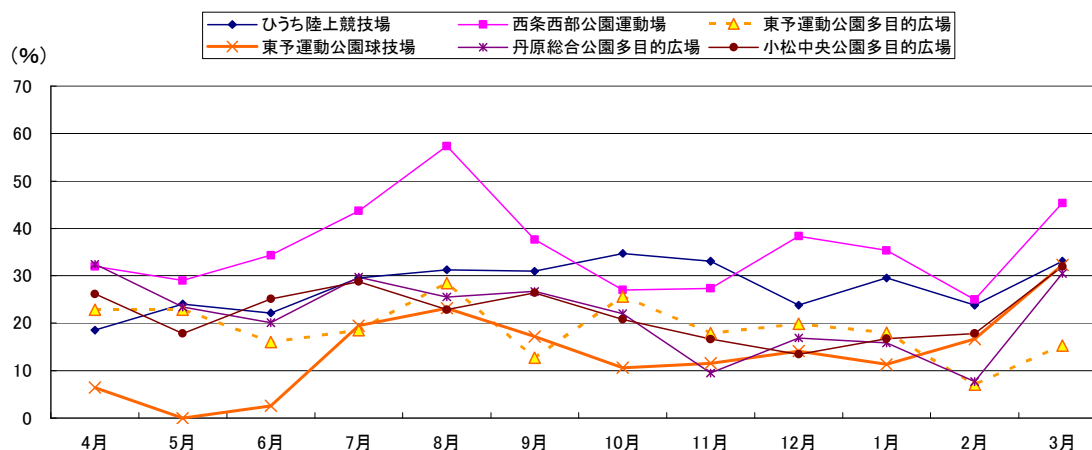
【体育館（アリーナ）年間稼働率】



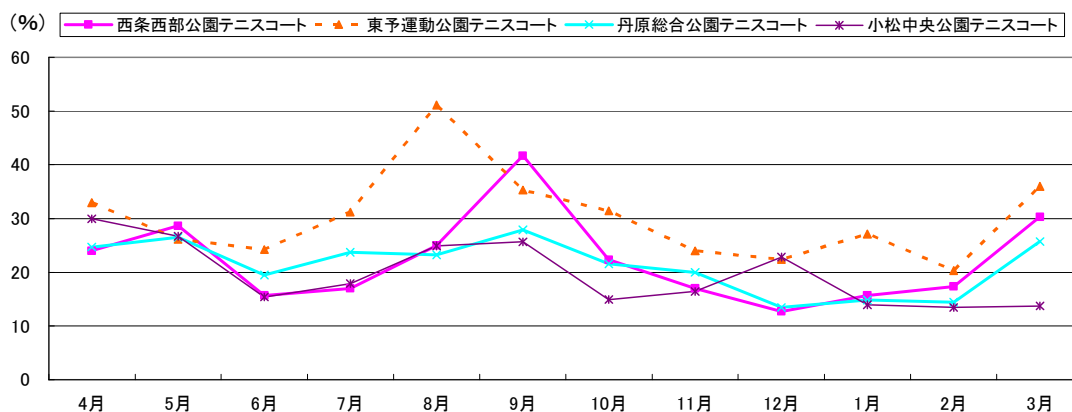
【野球場年間稼働率】



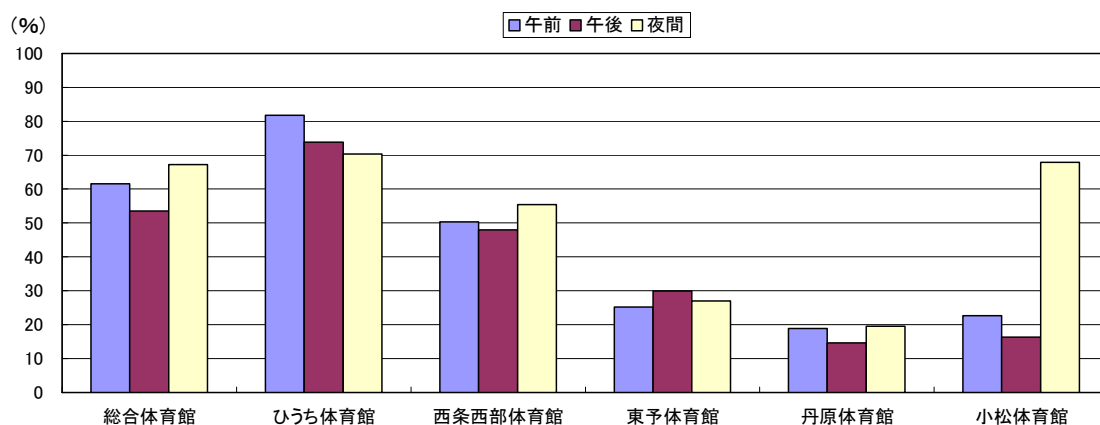
【多目的広場年間稼働率】



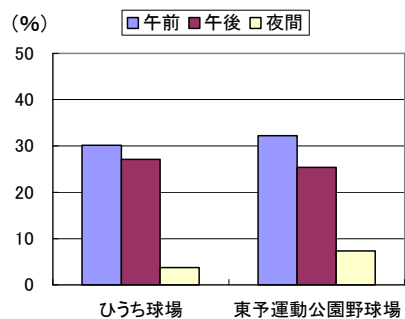
【テニスコート年間稼働率】



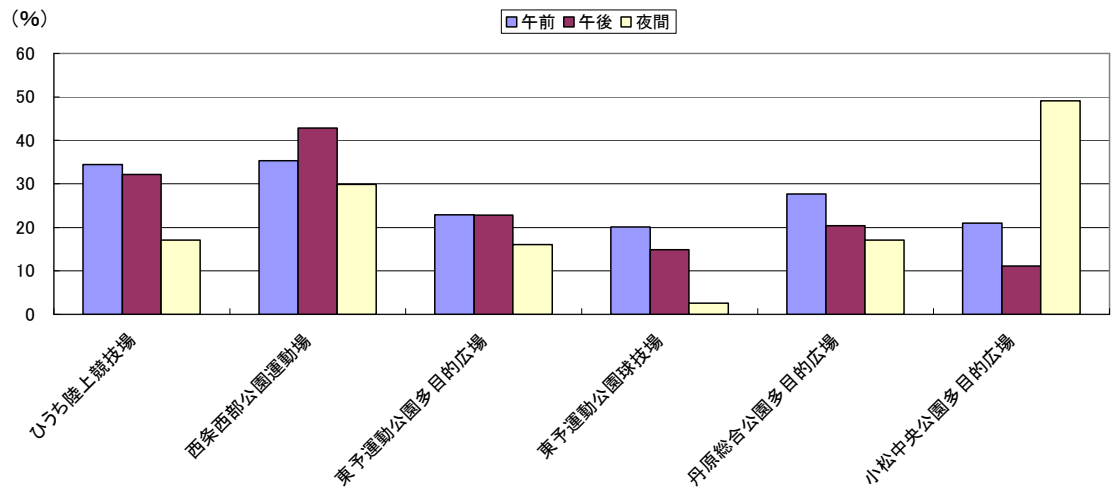
【体育館（アリーナ）時間帯稼働率】



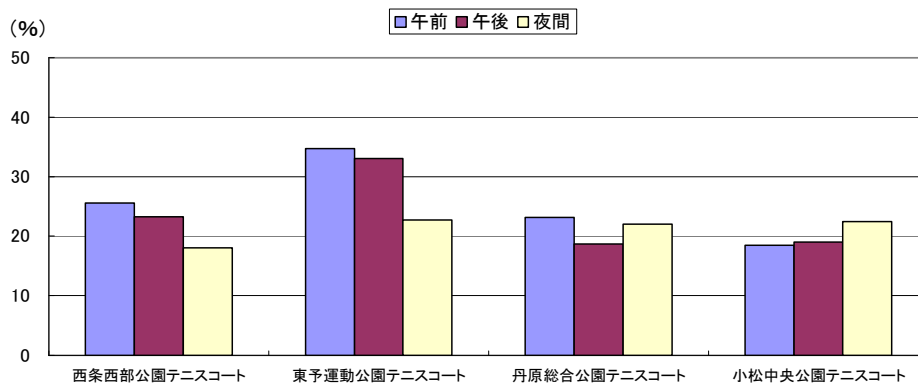
【野球場時間帯稼働率】



【多目的広場時間帯稼働率】



【テニスコート時間帯稼働率】



(4) 自然環境等の地域資源の概況

石鎚山の成就社近辺の山道やスキー場、寒風山から石鎚山に至る通称瓶ヶ森林道周辺の環境についても、標高差を活用することによりバリエーション豊かな高地トレーニングの実施が可能であるとされています。

・ 石鎚成就社周辺



石鎚ピクニック遊園地スキー場
(標高 1300m~1400m)

・ いの町道瓶ヶ森線 (通称：瓶ヶ森林道)



旧寒風山トンネル～石鎚土小屋

○総延長:26.4km、幅員 4m～

○標高 1100m～1600m

○アスファルト舗装

○開通時期 4月～11月

・ 本谷温泉



市内には、伊予の3名湯の一つと称される本谷温泉を始めとする温泉施設が13箇所点在しており、温泉とスポーツトレーニングを組み合わせたトレーニングメニュー化についても可能と考えられます。

(5) 課題

① 市内平野部に点在するスポーツ施設の有効活用

市内平野部には、西条運動公園や東予運動公園に代表される各種スポーツ施設が点在しており、市民総合体育大会を始めとする各種のスポーツ大会の開催や市民のスポーツ・レクリエーション活動の場の確保に努めてきました。

しかしながら、高機能スポーツ施設や人口集中地近辺施設への需要の集中が進む一方で、施設の利用キャパに余裕のある施設も存在しており、今後は、各スポーツ施設の役割について整理するとともに効率的な施設運用について検討していく必要があります。

② 有力な地域資源の活用

西条市には、石鎚山系の高地環境や温泉施設、良質な水、豊富な食材など全国に誇る魅力的な「素材」が多数存在しています。しかしながら、各素材としての魅力であり、複合的な活用は十分に出来ていない状況にあります。

今後は、それらの素材を上手に連携することにより、西条を更に魅力化していくことが可能であり、実現に向け取り組む必要があります。

③ 合宿誘致のためのPR活動

アスリートに訪問してもらうには、その必要とする情報をスムーズに入手できる仕組みとニーズに合った情報を発信することが必要です。さらに、数ある合宿地の中から選択されるためには、西条の特色や魅力を打ち出すことが重要となっていますが、競技指導者やアスリートがこれらの情報を収集するには多くの時間と労力を掛けなければ入手できない状況となっています。

今後は、合宿に必要な情報を一元化したものを発信し、競技指導者やアスリートに西条の情報が伝達しやすい環境を整備する必要があります。

④ 一元的な受入窓口機関

現在、アスリートが西条で合宿するために必要な手続きを取る場合には、トレーニング施設と宿泊施設の確保を個別に行なう必要があります。加えて、合宿を実施するにあたって交通手段の確保、食事の手配など様々な手続きをとらなければならない状況となっています。

今後は、このような状況を改善し、受入れのためのワンストップサービスの提供と合宿をコーディネートする仕組みを構築する必要があります。

5 施策方針

全国のスポーツ合宿の動向、西条市における合宿の現状と課題を踏まえ、平成 20 年以降に実施すべき諸施策は下記の（１）合宿受け入れ施策（課題解決）のとおりです。また、これらの諸施策のうち、特に緊急に取り組む必要がある施策を重点プログラムとして（２）重点プロジェクトに揚げ、基本計画実施スケジュールに沿って、強力に推進していきます。

（１）合宿受入施策（課題解決）

① 高地環境と体育施設を活用したトレーニング環境の構築

石鎚山系の 1000m から 1600m の高地環境に高地トレーニング拠点施設を整備し、平野部のトレーニング施設と連携させることにより、高地トレーニングと平地トレーニングを組み合わせたトレーニングメニューを開発し、西条オリジナルのトレーニング環境の構築に努め、基礎体力の増強とスポーツ競技力の向上を目指す人々にとって、最適な環境を創出し、アスリートに提案することを目指します。

また、西条での合宿を支援するために、科学的なトレーニング指導の出来る人材の確保、育成に努めます。

② スポーツ施設の整備

スポーツトレーニングの多様化するニーズに対応するために、アスリートや体育施設整備の専門家の助言により、既存スポーツ施設及びトレーニング機器等のリニューアル化を図るとともに、必要に応じて屋内運動場等の整備を進めていきます。また、平成 29 年の第 72 回国民体育大会の開催を視野に入れたスポーツ施設の整備を進めます。

さらに、市内に点在するスポーツ施設、石鎚山系、温泉施設などのネットワーク化を図るとともに、アスリートの移動の利便性を向上させるための交通手段の確保に努めます。

③ 競技力向上のための環境づくり

アスリートの「強くなりたい」「体力の増強を図りたい」という思いを実現するため、東海大学や財団法人西条市体育協会と連携して、トレーニングを指導する人材の育成と科学的なトレーニングプログラムの開発を進めていきます。

また、トレーニングの実施については、西条運動公園、東予運動公園など、既存の体育施設を合宿トレーニングの実施施設として、トレーニングマシンの新規導入や施設の改修により、アスリートが快適かつ安全にトレーニングできる環境を創出します。

④ 情報発信

アスリートが求めるスポーツ施設や宿泊施設などの情報をインターネット上で発信していきます。また、大都市圏の旅行代理店と連携し、企業法人や学校法人向け商品として提案していくとともに、環瀬戸内地域の社会人や大学のスポーツ団体に対しても、ダイレクトメール等を通じて情報を提供していきます。

⑤ 受入支援体制の構築

合宿の誘致活動から合宿の受入れまでを支援する一元化された窓口機関の設置を目指します。また、地域のスポーツ施設のキャパシティに合わせて、誘致する地域、競技種目、レベル（実業団、大学、高校等）を絞り込み、必要とする環境整備と誘致活動を行うとともに、合宿者受け入れに際しての統一的なルール設定とマニュアルを整備し、合宿者が快適にトレーニングできる環境の構築に努めます。

⑥ 地元の食材とお接待による西条ならではのおもてなし

西条市は、肥沃な農地と、良質で豊富な地下水により、生産量日本一の愛宕柿や裸麦、水稻、ほうれん草、いちごなどの多品目の農産物を産出しているほか、採卵鶏や養豚などの畜産が盛んであるとともに、わたりガニや車えび、海苔養殖などの水産物にも恵まれています。

この様な自然豊かな恵みを受けた産物を活用し「安全」で「安心」な食材を使った栄養バランスの取れた料理、アスリートのニーズに合った様々な目的別機能食の開発を進め、将来的には西条独自のサービスとしての提供を目指します。

また、アスリートは合宿期間中に、厳しいトレーニングを集中的に実施しており、トレーニングに集中できる環境づくりと、トレーニング後にリラックスできる快適な環境が必要となります。物質面での快適な環境づくりと併せて、心理的にも快適に過ごし、アスリートがリラックスしながら快適にトレーニングを行い、休息を得ることができる環境づくりを目指します。

そして、真心の籠った「おもてなし」の提供を目指して、宿泊機関等と協力し人材の育成と啓発を行なっていきます。

⑦ トレーニングノウハウの活用

今後、体育施設の整備を図っていくうえで、アスリートのトレーニングから市民のスポーツトレーニング、健康増進までを視野に入れた環境整備を目指します。

市民の健康増進からトップクラスのアスリートがトレーニングできる環境づくりのため、専門家の助言を得ながら、バランスの取れたトレーニング環境を構築するとともに、東海大学や医師会の協力のもと、科学的なトレーニング指導を実施することが出来る指導者を育成していきます。

また、トレーニング指導者とトレーニングプログラムを活用し、教育委員会や体育協会と協力して、市民の基礎体力の増強、学校等のクラブ活動のスポーツ競技力の向上を図ります。

⑧ 合宿受け入れと市民の体育施設利用のルール作り

スポーツ合宿の実施にあたっては、数日間に亘り体育施設を占有することになり、既に利用している市民との施設利用に関する調整が必要となってきます。

また、施設利用にあたっての、合宿者と受入れ側のトラブルを防止するとともに、合宿による市民の施設利用の阻害を生じさせない仕組みづくりが重要となります。これらの問題を未然に防ぐためには、市内に点在する体育施設を一元管理し効率的に施設を運用することが重要となります。

市内体育施設の一元管理を進め、季節毎の利用状況の分析を進めるとともに体育施設の機能分担についての見直しと整理を行ない、効率的な施設運用と施設利用ルールを設定します。

さらに、合宿繁忙期や大規模な競技大会開催時の補完的施設として、民間企業が所有するスポーツ施設の活用についても、検討を進めます。

⑨ 合宿者と市民の交流事業

これまでも、西条市には全国的にも優秀な実績を挙げている競技レベルの高いアスリート達が数多く来訪しており、地元の子供たちとの交流や競技指導を実施しています。参加者からは、あこがれの選手との交流や指導を受ける貴重な機会であるとして好評を得ていることから、今後、合宿者の協力を得ながら、市民とアスリートの交流機会を増やしていきます。

また、トップアスリートにおいては、トレーニング内容やその指導方法、取り組み姿勢などについて参考になるものが数多くあることから、それらのノウハウについても、市内の競技者のみならず指導者が体験し学べる機会を創出する必要があります。

今後、合宿を受け入れていく中で、合宿者の協力を得ながら市民とアスリートの交流機会を設けるとともに、アスリートの持つノウハウの吸収を目的に、指導者を対象とした教室や合宿トレーニングの見学会、ミーティングを実施していきます。

⑩ 愛媛県、周辺市町との連携

アスリートを誘致するうえで、市内のスポーツ施設のキャパシティを超える合宿希望がある場合に、近隣市町のスポーツ施設への斡旋、取次ぎを行なえる協力体制を構築することが重要となります。

また、高地トレーニング会場となる石鎚山系は、久万高原町、高知県の町に跨ることから、両町や愛媛県、高知県と連携して高地トレーニング環境の整備とアスリートの受け入れを実施していく必要があります。

今後、合宿受け入れ環境を整備していくうえで、近隣市町と連携し受け入れ環境の構築を目指します。

(2) 重点プロジェクト

① 情報発信

スポーツ施設や宿泊施設などの情報をインターネットやダイレクトメール等で発信していきます。

また、環瀬戸内地域を主要マーケットとして、社会人や大学のスポーツ団に対するPR活動を実施します。更に、大都市圏の旅行代理店と連携し、企業法人や学校法人向け商品の提案と情報提供を行ないます。

② ネットワーク化

市内に点在するスポーツ施設や石鎚山系、温泉施設などのネットワーク化とアスリートの利便性の向上のための移動手段について検討します。

③ 市民の施設利用との利害調整

各スポーツ施設の一元管理により、効率的な施設運用を推進するとともに、市内スポーツ施設の機能と役割について検討を進め、それぞれのライフステージに応じたスポーツ・レクリエーション活動が円滑に推進できる、仕組みづくりを構築します。

④ 受入支援体制の構築

合宿の誘致活動から合宿の受入れまでを支援する一元化された窓口機関を設置し、誘致する地域、競技種目、レベル（実業団、大学、高校等）の絞り込み、統一された受入れルールとマニュアルを策定するとともに、必要とする環境整備と誘致活動を行います。

⑤ スポーツ施設の整備

スポーツトレーニングの多様化するニーズに対応するために、アスリートや体育施設整備の専門家の助言により、既存スポーツ施設及びトレーニング機器等のリニューアル化を図るとともに、必要に応じて屋内運動場等の整備を進めていきます。また、平成29年の第72回国民体育大会の開催を視野に入れたスポーツ施設の整備を進めます。

⑥ 人材の育成

合宿を支援するために、科学的なトレーニングプログラムの開発とトレーニング指導者の確保、育成を図るとともに、宿泊機関と連携して西条の「おもてなし」の環境づくりのための人材育成に努めます。

⑦ 競技大会の開催

大規模な競技大会を開催することによる受入れ体制環境整備の促進とノウハウの習得を視野に入れ、誘客と合宿地としてのPRを目的とした親善大会の開催を目指します。

6 基本計画実施スケジュール

	合宿誘致	競技力向上	健康増進
平成 20 年 ~	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本計画策定・実施管理委員会の設置 ○ 情報発信⇄営業方針、戦略策定（～5月） ○ 合宿受入環境構築のためのネットワーク化、市民利用とのスポーツ施設の調整 ○ 受入支援体制の構築（～平成 21 年 3 月） <ul style="list-style-type: none"> ・高地環境整備のための詳細把握 ・スポーツ施設整備のための詳細把握 ・トレーニング指導者等人材育成とトレーニングプログラム開発概要検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ競技力向上化のための方針策定 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代育成事業等の実施 ・合宿者との交流事業実施のための詳細把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○高地環境を活用した健康増進事業の実施
平成 21 年 ~	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ環境整備の具体的取組みの実施 ○ 市民利用との調整ルールに則った運営 ○ 誘致コミッションによる営業 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域スポーツクラブ設立に向けた概要検討 	
平成 23 年~	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際親善試合の開催準備 		
平成 24 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際親善試合の開催 		
平成 29 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第 72 回国民体育大会の開催 		

7 推進体制

構想を推進していくために、施策の実施並びに合宿受入れ環境の構築に向けて一体的に取り組むとともに、計画の進行管理と課題解決を行なうための推進体制を構築します。

(1) 委員会の設置

構想の実実施計画の策定と計画の進行管理を行なうため、市内関係団体の代表や有識者で構成される実施計画策定・管理委員会を設置します。当該委員会では、幅広い見地から全体計画の進行や個別事案について審議を行なうとともに、合宿者の支援と誘致を行なう一元化された窓口機関の設置に向けた協議を行ないます。

また、合宿の受入れ窓口となる合宿誘致コミッション（仮）が設置された場合については、当該委員会は、合宿にかかる営業活動機能、受入れ機能、合宿誘致に関連する意見具申の機能を担うものとします。

(2) ワーキンググループの設置

実施計画策定・管理委員会の管理の下、それぞれ関連する課題や事案に対応するため、関係団体と行政のそれぞれの現場から専門的な視点で、各分野での合宿受入れ環境整備のための取り組みを行ないます。

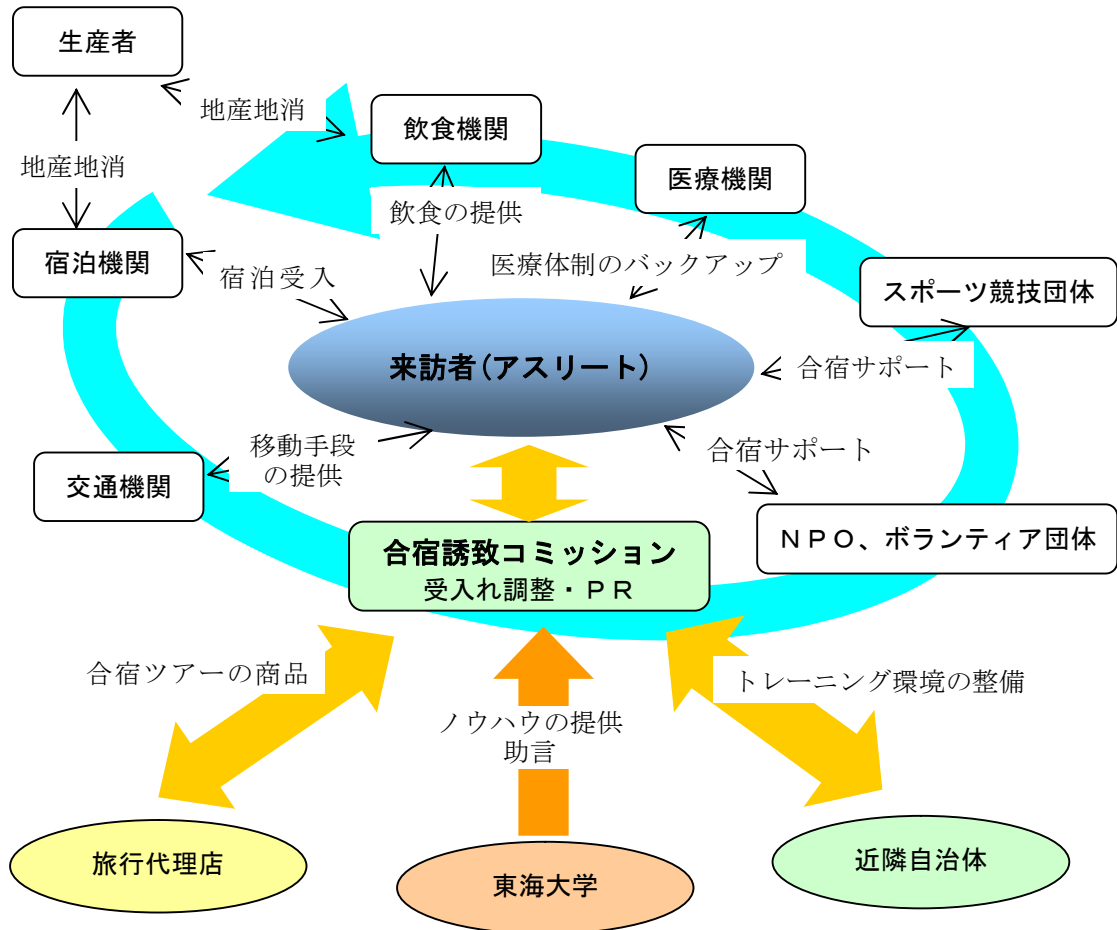
(3) 行政

企画経済部企画課において、構想の進行管理と情報の一元管理を行ないます。また、各担当課において構想の推進に必要な実施計画の立案と事業の実施を関係部署と連携を図りながら推進します。合宿都市構想を推進する上で、基盤整備など行政において取り組みが必要な事業の検討と事業化に向けた取り組みを実施します。

(4) コミッション

合宿の誘致活動から合宿の受入れまでを支援する一元化された窓口機関（合宿誘致コミッション（仮））を設置します。（参照：イメージ図）

【イメージ図】



8 文化系合宿への適用

現在、スポーツに止まらず様々な分野の文化系サークルや団体などにおいて合宿が実施されている状況の中、本基本計画に基づくスポーツ合宿の環境整備により、文化系合宿においても、受入支援体制や宿泊、飲食などの共通基盤の活用や合宿支援ノウハウの適用が可能と考えられます。

市内には、総合文化会館や丹原文化会館をはじめ、四国鉄道文化館などの充実した社会教育・文化施設が整備されています。また、7世紀の山城と推定される「永納山城跡」、「旧西条藩陣屋跡」、伊予聖人として崇敬された漢学者の近藤篤山氏の旧邸など古くからの貴重な文化遺産も現存しており、これら地域資源の活用により、文化系合宿の誘致が可能であると考えられます。

今後は、スポーツ合宿環境の整備を進め、合宿受け入れに対する仕組みを構築していくとともに、市内の文化施設の利用状況の把握、全国の文化系合宿の動向、ミニコンベンションの開催状況等文化系合宿に関する調査研究を行い、スポーツ合宿誘致に関するノウハウを十分に活かすことによる事業展開を図っていきます。